

令和元年12月10日
統計部公表

令和元年産水稻の収穫量（北陸）

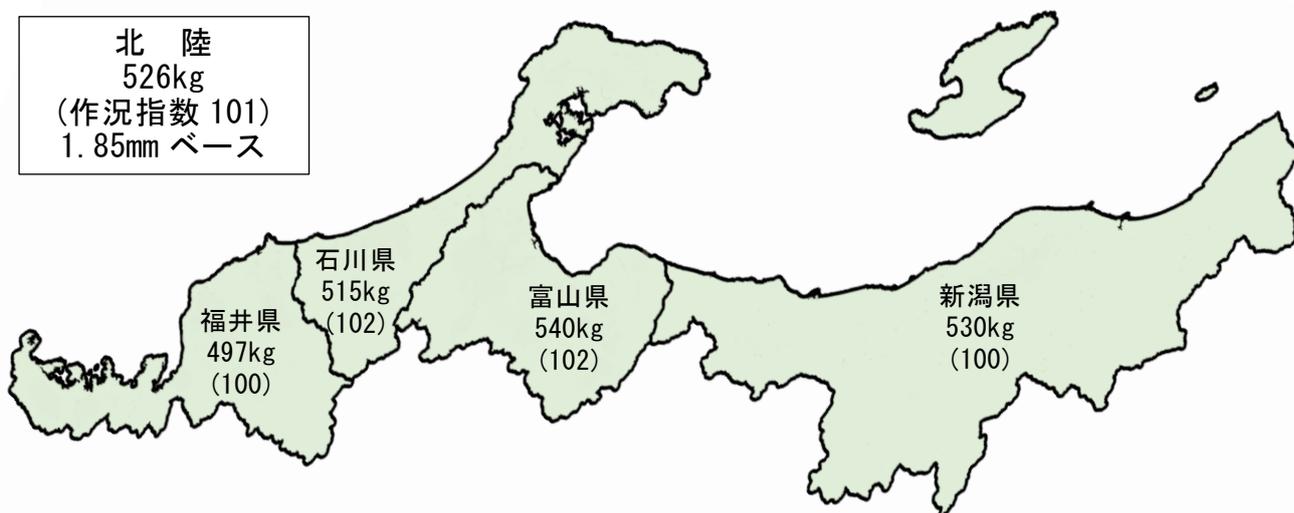
— 収穫量（子実用）は111万5,000 t —

— 10 a 当たり収量は526kg、作況指数は101 —

【調査結果の概要】

- 1 令和元年産水稻の作付面積（子実用）は20万6,500haで、うち主食用作付面積は18万6,400haとなった。
また、収穫量（子実用）は111万5,000 tで、うち主食用の収穫量は100万7,000 tとなった。
- 2 農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の10 a 当たり収量は526kgで、作況指数は101となった。

図1 県別10 a 当たり収量及び作況指数



- 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
- 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
- 収穫量（子実用）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
- 10 a 当たり収量及び作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（北陸は1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

本資料は、北陸農政局ホームページ中の「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/data/2019yotei.html> 】

◎ 水稻調査結果の主な利活用

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業における共済基準収穫量算定のための資料

◎累年データ

水稻の年次別推移（北陸）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 21 年産	211,200	210,000	528	1,108,000	201,400	1,062,000	99
22	213,000	210,900	526	1,109,000	198,300	1,043,000	99
23	212,900	208,800	537	1,122,000	195,500	1,050,000	101
24	213,400	209,400	545	1,141,000	194,100	1,057,000	102
25	215,100	212,700	545	1,160,000	193,900	1,058,000	102
26	215,500	212,500	536	1,139,000	190,000	1,019,000	100
27	214,100	207,800	531	1,104,000	184,100	977,800	99
28	213,400	205,600	567	1,165,000	182,100	1,031,000	107
29	212,500	204,100	529	1,079,000	180,100	952,100	98
30	212,700	205,600	533	1,096,000	184,800	985,300	98
令和元年産	212,800	206,500	540	1,115,000	186,400	1,007,000	101

資料：農林水産省統計部『作物統計』

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
 2 10a 当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 3 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
 4 作況指数は、平成27年産からは北陸地域に所在する農家等が実際に使用したふるい目幅分布において、その目幅が大きいものから数えて9割を占めるまでのふるい目幅（1.85mm）以上で選別された玄米を基に算出した数値である。なお、26年産までは1.70mmのふるい目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

水稻の年次別推移（新潟県）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10a 当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 21 年産	118,400	117,400	534	626,900	111,200	593,800	99
22	119,600	117,900	524	617,800	108,600	569,100	97
23	120,000	117,400	538	631,600	108,100	581,600	100
24	120,100	117,500	558	655,700	107,300	598,700	104
25	121,100	119,700	555	664,300	107,100	594,400	103
26	121,700	120,100	547	656,900	105,300	576,000	101
27	121,300	117,500	527	619,200	102,400	539,600	97
28	121,300	116,800	581	678,600	101,500	589,700	108
29	120,900	116,300	526	611,700	100,300	527,600	96
30	121,500	118,200	531	627,600	104,700	556,000	95
令和元年産	121,900	119,200	542	646,100	106,800	578,900	100

◎累年データ（続き）

水稻の年次別推移（富山県）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10a当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 21 年産	39,600	39,500	537	212,100	38,200	205,100	100
22	39,900	39,800	538	214,100	38,100	205,000	101
23	39,600	38,900	551	214,300	36,500	201,100	103
24	39,800	39,000	536	209,000	36,300	194,600	100
25	40,200	39,700	546	216,800	36,300	198,200	102
26	40,200	39,500	541	213,700	35,700	193,100	101
27	39,500	38,600	559	215,800	34,200	191,200	103
28	39,300	38,100	566	215,600	33,800	191,300	106
29	39,100	37,600	546	205,300	33,300	181,800	100
30	38,900	37,300	552	205,900	33,300	183,800	102
令和元年産	38,900	37,200	553	205,700	33,300	184,100	102

水稻の年次別推移（石川県）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10a当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 21 年産	26,400	26,400	511	134,900	25,900	132,300	98
22	26,600	26,400	524	138,300	25,500	133,600	101
23	26,500	26,000	528	137,300	25,200	133,100	102
24	26,800	26,400	526	138,900	25,100	132,000	101
25	27,000	26,700	522	139,400	25,000	130,500	101
26	27,000	26,600	508	135,100	24,300	123,400	98
27	26,700	26,100	522	136,200	23,600	123,200	101
28	26,400	25,600	534	136,700	23,200	123,900	104
29	26,100	25,300	519	131,300	23,200	120,400	99
30	25,800	25,100	519	130,300	23,200	120,400	100
令和元年産	25,600	25,000	532	133,000	22,700	120,800	102

水稻の年次別推移（福井県）

年産	作付面積 (青刈り面積を含む)		10a当たり 収 量 (1.70mm)	収 穫 量 (子実用)	参 考		作況指数
	子実用				主食用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
	ha	ha	kg	t	ha	t	
平成 21 年産	26,900	26,800	500	134,000	26,100	130,500	97
22	27,000	26,800	518	138,800	26,100	135,200	100
23	26,800	26,500	523	138,600	25,600	133,900	101
24	26,700	26,400	519	137,000	25,400	131,800	100
25	26,900	26,500	526	139,400	25,600	134,700	102
26	26,600	26,200	510	133,600	24,700	126,000	98
27	26,400	25,600	518	132,600	23,900	123,800	99
28	26,300	25,100	535	134,300	23,600	126,300	104
29	26,300	24,900	525	130,700	23,300	122,300	101
30	26,400	25,000	530	132,500	23,600	125,100	101
令和元年産	26,400	25,100	520	130,500	23,600	122,700	100

【北陸地域の調査結果】

- 令和元年産水稻の作付面積(子実用)は20万6,500haで、前年産に比べ900ha増加した。
また、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は18万6,400haとなった。
- 水稻作付面積(子実用)に10a当たり収量(1.70mm)を乗じた収穫量(子実用)は111万5,000t(前年産に比べ1万9,000t増加)、うち収穫量(主食用)は100万7,000tとなった。
- 水稻の作柄は、田植期以降、おおむね高温・多照で経過したことから、全もみ数(穂数×1穂当たりもみ数)が「やや多い」となり、登熟は8月下旬の寡照・多雨の影響により緩慢になった地域があったものの、北陸全体では「平年並み」となった。
農家等が使用しているふるい目幅ベース(1.85mm)の10a当たり収量は、526kg(前年産に比べ18kg増加)となった。
また、北陸の作況指数は101、新潟県が100、富山県が102、石川県が102、福井県が100となった。

表1 令和元年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積(子実用)			10a当たり収量(1.70mm)		収穫量(子実用)			参 考	
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産との比較 対 差	実 数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=②×④
		対 差	対 比				対 差	対 比		
北 陸	206,500	900	100	540	7	1,115,000	19,000	102	186,400	1,007,000
新潟県	119,200	1,000	101	542	11	646,100	18,500	103	106,800	578,900
富山県	37,200	△ 100	100	553	1	205,700	△ 200	100	33,300	184,100
石川県	25,000	△ 100	100	532	13	133,000	2,700	102	22,700	120,800
福井県	25,100	100	100	520	△ 10	130,500	△ 2,000	98	23,600	122,700

- 注：1 10a当たり収量及び収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
2 作付面積(子実用)及び主食用作付面積は、ラウンドしているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。
3 収穫量(子実用)及び収穫量(主食用)の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

表2 令和元年産水稻の10a当たり収量及び作柄概況

区 分	農家等が使用しているふるい目幅ベース(1.85mm)			作柄概況(平年比較)				
	10a当たり収量		10a当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②	穂数の多少	1穂当たり もみ数の多少	全もみ数 の多少	登熟の良否
	実 数 ①	前年産との比較 対 差						
北 陸	526	18	522	101	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
新潟県	530	30	528	100	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良
富山県	540	5	528	102	多い	やや少ない	やや多い	やや不良
石川県	515	8	506	102	やや多い	平年並み	やや多い	平年並み
福井県	497	△ 6	499	100	やや多い	平年並み	やや多い	やや不良

- 注：1 農家等が使用しているふるい目幅ベースとは、北陸地域において過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅(1.85mm)以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
2 本表における平年比較の表示区分は、「良・多い」が対平年比106%以上、「やや良・やや多い」が105~102%、「平年並み」が101~99%、「やや不良・やや少ない」が98~95%に相当する。

【管内各県の調査結果】

1 新潟県

- (1) 水稲の作付面積（子実用）は11万9,200haで、前年産に比べ1,000ha増加した。

このうち、主食用作付面積は10万6,800haとなった。

- (2) 収穫量（子実用）（水稲作付面積（子実用）に10a当たり収量（1.70mm）を乗じたもの。以下同じ。）は、64万6,100tとなり、このうち、収穫量（主食用）は57万8,900tとなった。

- (3) 作柄は、全もみ数（穂数×1穂当たりもみ数。以下同じ。）は、田植期以降、おおむね高温・多照で経過したことから「やや多い」となり、登熟は、8月下旬の寡照・多雨の影響により緩慢になったことから「やや不良」となった。

農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm。以下同じ。）の10a当たり収量は530kg（前年産に比べ30kgの増加）で、作況指数は100となった。

2 富山県

- (1) 水稲の作付面積（子実用）は3万7,200haで、前年産に比べ100ha減少した。

このうち、主食用作付面積は3万3,300haとなった。

- (2) 収穫量（子実用）は、20万5,700tとなり、このうち、収穫量（主食用）は18万4,100tとなった。

- (3) 作柄は、全もみ数は、田植期以降、おおむね高温・多照で経過したことから「やや多い」となり、登熟は、8月下旬の寡照・多雨の影響により緩慢になったことから「やや不良」となった。

農家等が使用しているふるい目幅ベースの10a当たり収量は540kg（前年産に比べ5kgの増加）で、作況指数は102となった。

図2
新潟県の作柄表示地帯別
10a当たり収量及び作況指数

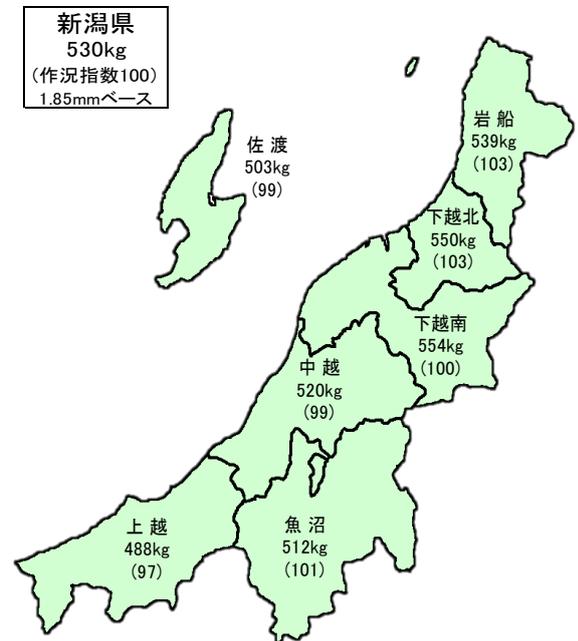
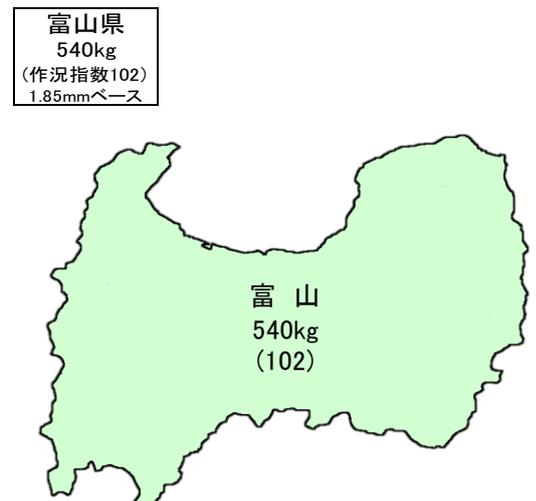


図3
富山県の10a当たり収量及び作況指数

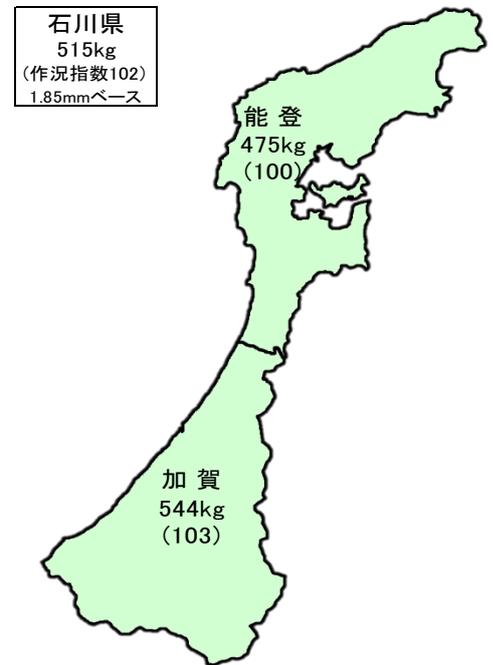


3 石川県

- (1) 水稲の作付面積（子実用）は2万5,000haで、前年産に比べ100ha減少した。
このうち、主食用作付面積は2万2,700haとなった。
- (2) 収穫量（子実用）は、13万3,000 t となり、このうち、収穫量（主食用）は12万800 t となった。
- (3) 作柄は、全もみ数は、田植期以降、おおむね高温・多照で経過したことから「やや多い」となり、登熟は、他県に比べて出穂期が早く、8月下旬の寡照・多雨の影響が少なかったことから「平年並み」となった。
農家等が使用しているふるい目幅ベースの10 a 当たり収量は515kg（前年産に比べ8kgの増加）で、作況指数は102となった。

図4

石川県の作柄表示地帯別
10 a 当たり収量及び作況指数

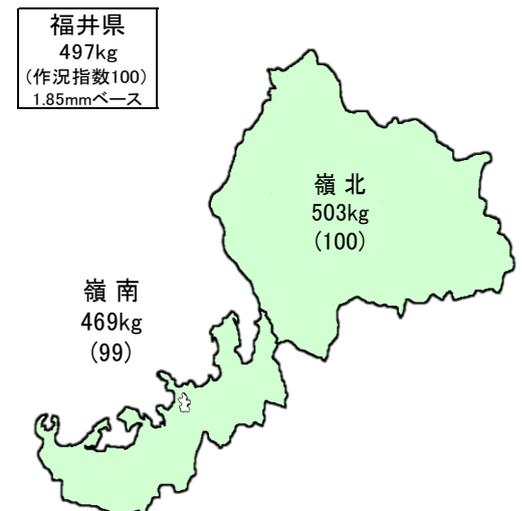


4 福井県

- (1) 水稲の作付面積（子実用）は2万5,100haで、前年産に比べ100ha増加した。
このうち、主食用作付面積は2万3,600haとなった。
- (2) 収穫量（子実用）は、13万500 t となり、このうち、収穫量（主食用）は12万2,700 t となった。
- (3) 作柄は、全もみ数は、田植期以降、おおむね高温・多照で経過したことから「やや多い」となり、登熟は、8月下旬の寡照・多雨の影響により緩慢になったことから「やや不良」となった。
農家等が使用しているふるい目幅ベースの10 a 当たり収量は497kg（前年産に比べ6kgの減少）で、作況指数は100となった。

図5

福井県の作柄表示地帯別
10 a 当たり収量及び作況指数



【統計表】

1 令和元年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量（1.70mm）		収穫量（子実用）			参 考	
	実 数 ①	前年産との比較		実 数 ②	前年産 との比較 対 差	実 数 ③=①×②	前年産との比較		主食用 作付面積 ④	収穫量 （主食用） ⑤=②×④
		対 差	対 比				対 差	対 比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
北 陸	206,500	900	100	540	7	1,115,000	19,000	102	186,400	1,007,000
新 潟 県	119,200	1,000	101	542	11	646,100	18,500	103	106,800	578,900
岩 船	6,390	50	101	549	39	35,100	2,800	109
下 越 北	17,100	100	101	562	42	96,100	7,700	109
下 越 南	34,600	400	101	567	0	196,200	2,300	101
中 越	25,000	0	100	536	8	134,000	2,000	102
魚 沼	15,500	300	102	521	6	80,800	2,500	103
上 越	15,000	200	101	503	△ 7	75,500	0	100
佐 渡	5,680	△ 10	100	518	30	29,400	1,600	106
富 山 県	37,200	△ 100	100	553	1	205,700	△ 200	100	33,300	184,100
石 川 県	25,000	△ 100	100	532	13	133,000	2,700	102	22,700	120,800
加 賀	14,500	0	100	558	18	80,900	2,600	103
能 登	10,400	△ 200	98	495	5	51,500	△ 400	99
福 井 県	25,100	100	100	520	△ 10	130,500	△ 2,000	98	23,600	122,700
嶺 北	21,500	100	100	526	△ 9	113,100	△ 1,400	99
嶺 南	3,640	△ 20	99	487	△ 12	17,700	△ 600	97

- 注：1 10 a 当たり収量及び収穫量は、1.70 mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 2 作付面積（子実用）及び主食用作付面積は、ラウンドしているため、県ごとの積上げ値が北陸値と一致しない場合がある。
 3 収穫量（子実用）及び収穫量（主食用）の北陸値は、県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。

2 令和元年産水稻の10 a 当たり収量及び作況指数

区 分	農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）		
	10 a 当たり 収量 ①	10 a 当たり 平年収量 ②	作況指数 ③=①/②
	kg	kg	
北 陸	526	522	101
新 潟 県	530	528	100
岩 船	539	521	103
下 越 北	550	535	103
下 越 南	554	552	100
中 越	520	524	99
魚 沼	512	509	101
上 越	488	503	97
佐 渡	503	510	99
富 山 県	540	528	102
石 川 県	515	506	102
加 賀	544	527	103
能 登	475	476	100
福 井 県	497	499	100
嶺 北	503	504	100
嶺 南	469	473	99

注：農家等が使用しているふるい目幅ベースとは、北陸地域において過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（1.85mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

3 令和元年産水稻の主要生育ステージ（最盛期）

区分	田植期				出穂期				刈取期			
	最盛期	最盛期の比較		最盛期	最盛期の比較		最盛期	最盛期の比較				
		対平年	対前年		対平年	対前年		対平年	対前年			
	月 日			月 日			月 日					
北 陸	5. 11	並み	並み	8. 2	1日早	1日遅	9. 16	2日早	3日早			
新 潟 県	5. 10	並み	並み	8. 3	2日早	並み	9. 19	2日早	3日早			
岩 船	5. 11	1日早	1日早	8. 6	2日早	2日早	9. 23	2日早	並み			
下越北	5. 5	2日早	2日早	8. 2	4日早	2日早	9. 21	1日早	2日早			
下越南	5. 5	並み	並み	8. 3	1日早	1日遅	9. 16	2日早	3日早			
中 越	5. 8	1日早	1日早	8. 2	2日早	並み	9. 15	3日早	5日早			
魚 沼	5. 19	1日早	並み	8. 2	4日早	1日早	9. 22	4日早	1日早			
上 越	5. 15	1日早	1日早	8. 1	3日早	1日早	9. 20	並み	1日早			
佐 渡	5. 9	1日遅	1日遅	8. 5	2日早	2日早	9. 23	4日早	4日早			
富 山 県	5. 11	1日早	1日早	8. 1	並み	2日遅	9. 11	4日早	8日早			
石 川 県	5. 5	並み	1日遅	7. 29	並み	2日遅	9. 11	1日早	2日遅			
加 賀	5. 3	1日早	並み	7. 27	1日遅	2日遅	9. 8	1日早	3日遅			
能 登	5. 6	1日遅	1日遅	7. 30	1日早	2日遅	9. 14	1日早	1日遅			
福 井 県	5. 16	並み	1日遅	8. 2	2日遅	6日遅	9. 11	並み	2日遅			
嶺 北	5. 16	1日遅	1日遅	8. 2	2日遅	6日遅	9. 11	並み	3日遅			
嶺 南	5. 16	並み	2日遅	8. 2	2日遅	6日遅	9. 10	1日早	1日遅			

注：1 最盛期とは、田植、出穂済み及び刈取済み面積割合が50%に達した期日である。
 2 「最盛期の比較」欄の「対平年」は、直近5か年の平均値との比較である。

4 令和元年産水稻の収量構成要素（水稻作況調査標本筆調査成績）

区分	1㎡当たり株数		1株当たり有効穂数		1㎡当たり有効穂数		1穂当たりもみ数		1㎡当たり全もみ数		千もみ当たり収量	
	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比
	株	%	本	%	本	%	粒	%	百粒	%	g	%
北 陸	17.5	101	22.5	104	393	104	76.3	99	300	103	18.4	97
新 潟 県	17.0	101	23.0	103	391	104	77.7	99	304	103	18.3	97
富 山 県	18.9	101	20.4	106	386	106	75.9	98	293	104	19.3	97
石 川 県	17.8	101	22.4	101	398	102	73.6	99	293	102	18.5	101
福 井 県	17.3	97	23.4	104	404	102	73.0	101	295	102	18.1	98

区分	粗玄米粒数歩合		玄米粒数歩合		玄米千粒重		10a当たり粗玄米重		玄米重歩合		10a当たり玄米重	
	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比	本年	対平年比
	%	%	%	%	g	%	kg	%	%	%	kg	%
北 陸	89.7	99	96.7	101	21.3	98	563	100	98.2	100	553	101
新 潟 県	89.1	98	96.7	101	21.2	98	566	99	98.2	101	556	100
富 山 県	92.2	100	97.4	101	21.5	97	573	102	98.6	100	565	102
石 川 県	88.1	101	96.9	100	21.7	99	551	102	98.4	100	542	102
福 井 県	90.8	101	94.4	99	21.1	98	550	101	97.1	100	534	101

注：1 対平年比とは、過年次の作況標本筆結果から作成した各収量構成要素（1㎡当たり株数等）の平年値との対比である。
 2 千もみ当たり収量、玄米千粒重及び10a当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10a 当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としている（16ページ「収穫量調査の流れ」参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取済みの地域について、ふるい目幅の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10a 当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

5 令和元年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況

区 分	単位	計	ふるい目幅別重量分布状況						
			1.70mm以上 1.75mm未満	1.75mm ～1.80mm	1.80mm ～1.85mm	1.85mm ～1.90mm	1.90mm ～2.00mm	2.00mm 以上	
北 陸	重量割合	%	100.0	0.5	0.9	1.2	2.0	12.0	83.4
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.5	△ 2.6	4.0
新 潟 県	重量割合	%	100.0	0.4	0.8	1.1	1.8	11.6	84.3
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.8	△ 0.8	△ 3.1	5.5
岩 船	重量割合	%	100.0	0.4	0.7	0.8	1.3	7.6	89.2
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.3	△ 0.6	△ 1.1	△ 1.3	△ 7.9	11.2
下 越 北	重量割合	%	100.0	0.4	0.8	1.0	1.7	10.2	85.9
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.4	△ 0.7	△ 1.1	△ 1.2	△ 5.2	8.6
下 越 南	重量割合	%	100.0	0.4	0.8	1.1	1.8	12.3	83.6
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.3	△ 0.5	△ 0.8	△ 0.9	△ 3.4	5.9
中 越	重量割合	%	100.0	0.5	1.0	1.4	2.1	12.4	82.6
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.1	△ 0.3	1.0
魚 沼	重量割合	%	100.0	0.3	0.6	0.8	1.3	9.0	88.0
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.2	△ 0.4	△ 0.6	△ 0.7	△ 3.2	5.1
上 越	重量割合	%	100.0	0.5	1.0	1.4	2.2	13.4	81.5
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.2	△ 0.3	△ 0.6	△ 0.4	△ 1.5	3.0
佐 渡	重量割合	%	100.0	0.4	1.0	1.4	2.4	15.8	79.0
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.4	△ 0.8	△ 1.5	△ 1.4	△ 4.9	9.0
富 山 県	重量割合	%	100.0	0.5	0.9	1.0	2.2	12.5	82.9
	対平均差	ポイント	0.0	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.2	△ 3.2	3.9
石 川 県	重量割合	%	100.0	0.7	1.1	1.4	2.3	12.4	82.1
	対平均差	ポイント	0.0	0.2	0.3	0.3	0.4	1.1	△ 2.3
加 賀	重量割合	%	100.0	0.5	0.9	1.1	1.7	9.1	86.7
	対平均差	ポイント	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	△ 0.9	0.5
能 登	重量割合	%	100.0	0.9	1.4	1.8	3.3	17.5	75.1
	対平均差	ポイント	0.0	0.3	0.4	0.4	1.1	4.3	△ 6.5
福 井 県	重量割合	%	100.0	1.0	1.5	1.9	2.6	13.0	80.0
	対平均差	ポイント	0.0	0.2	0.0	0.0	△ 0.1	△ 2.2	2.1
嶺 北	重量割合	%	100.0	1.0	1.5	1.9	2.6	13.2	79.8
	対平均差	ポイント	0.0	0.2	0.0	0.0	△ 0.1	△ 1.9	1.8
嶺 南	重量割合	%	100.0	0.7	1.2	1.7	2.3	12.3	81.8
	対平均差	ポイント	0.0	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.4	△ 3.5	4.6

注：1 対平均差に用いた平均値は、直近5か年の重量割合の平均値である。

2 未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。

6 令和元年産水稻玄米のふるい目幅別10a当たり収量

単位：kg

区 分	ふるい目幅別10a当たり収量 (kg)					
	1.70mm以上	1.75mm以上	1.80mm以上	1.85mm以上	1.90mm以上	2.00mm以上
北 陸	540	537	532	526	515	450
新潟県	542	540	535	530	520	457
岩 船	549	547	543	539	531	490
下越北	562	560	555	550	540	483
下越南	567	565	560	554	544	474
中 越	536	533	528	520	509	443
魚 沼	521	519	516	512	505	458
上 越	503	500	495	488	477	410
佐 渡	518	516	511	503	491	409
富山県	553	550	545	540	528	458
石川県	532	528	522	515	503	437
加 賀	558	555	550	544	535	484
能 登	495	491	484	475	458	372
福井県	520	515	507	497	484	416
嶺 北	526	521	513	503	489	420
嶺 南	487	484	478	469	458	398

注： ふるい目幅別の10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことであり、10a当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

7 令和元年産水稻玄米のふるい目幅別収穫量（子実用）

単位：t

区 分	ふるい目幅別収穫量 (子実用) (t)					
	1.70mm以上	1.75mm以上	1.80mm以上	1.85mm以上	1.90mm以上	2.00mm以上
北 陸	1,115,000	1,109,000	1,099,000	1,086,000	1,064,000	929,900
新潟県	646,100	643,500	638,300	631,200	619,600	544,700
岩 船	35,100	35,000	34,700	34,400	34,000	31,300
下越北	96,100	95,700	94,900	94,000	92,400	82,600
下越南	196,200	195,400	193,800	191,700	188,200	164,000
中 越	134,000	133,300	132,000	130,100	127,300	110,700
魚 沼	80,800	80,600	80,100	79,400	78,400	71,100
上 越	75,500	75,100	74,400	73,300	71,700	61,500
佐 渡	29,400	29,300	29,000	28,600	27,900	23,200
富山県	205,700	204,700	202,800	200,800	196,200	170,500
石川県	133,000	132,100	130,600	128,700	125,700	109,200
加 賀	80,900	80,500	79,800	78,900	77,500	70,100
能 登	51,500	51,000	50,300	49,400	47,700	38,700
福井県	130,500	129,200	127,200	124,800	121,400	104,400
嶺 北	113,100	112,000	110,300	108,100	105,200	90,300
嶺 南	17,700	17,600	17,400	17,100	16,700	14,500

注： ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

8 令和元年産水稻の玄米品位の状況（北陸）

区 分	単位	整 粒	未熟粒		被害粒	死米・着色粒
			乳白粒	腹白粒		
重量割合	%	64.4	23.8	6.5	11.8	1.0
前年値	%	69.8	22.8	1.9	7.5	0.3
対前年差	ポイント	△ 5.4	1.0	4.6	4.3	0.7

注： 作況基準筆等の刈取試料を穀粒判別器を用いて品位分析したものである。

9 令和元年産水稻の被害面積及び被害量（北陸）

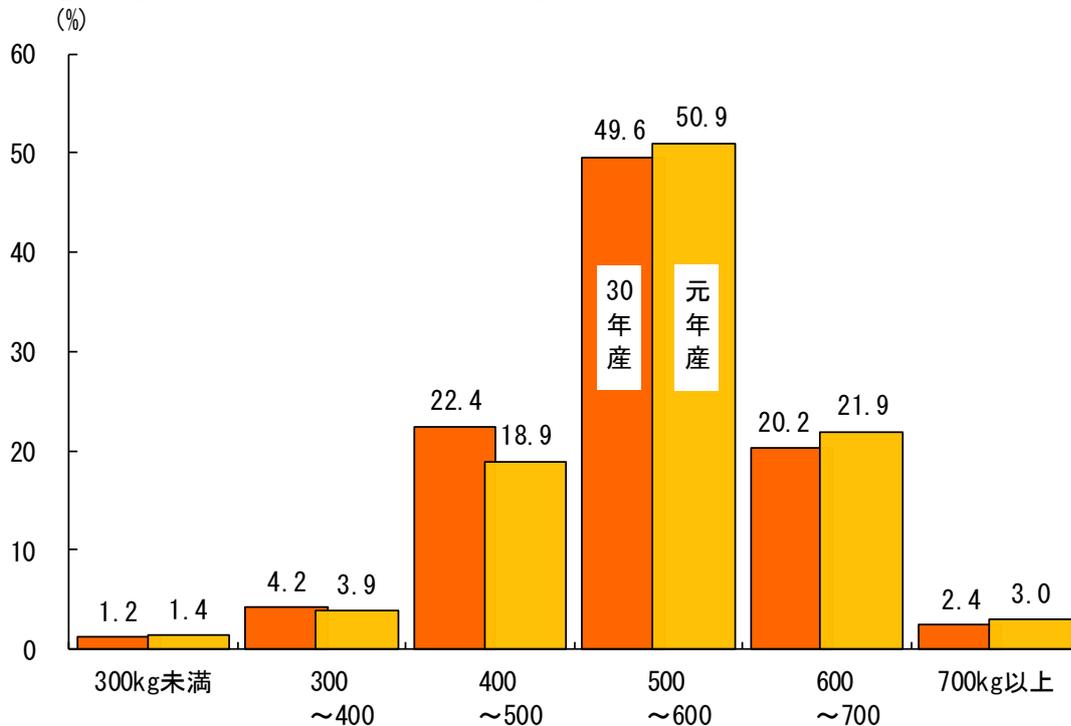
被害種類	被害面積	被害量	被害率	
			実数	対前年差
	ha	t	%	ポイント
冷害	—	—	—	—
日照不足	150,600	10,600	1.0	△ 0.7
高温障害	195,700	21,300	1.9	0.4
いもち病	8,830	930	0.1	0.0
ウンカ	4,370	397	0.0	0.0
カメムシ	13,700	807	0.1	0.1

10 令和元年産水稻の作況標本筆の10a当たり玄米重の分布状況（北陸） 単位：kg

区分	計	300kg未満	300 ～400	400 ～500	500 ～600	600 ～700	700kg以上
筆数割合	100.0	1.4	3.9	18.9	50.9	21.9	3.0
前年値	100.0	1.2	4.2	22.4	49.6	20.2	2.4
対前年差 (ポイント)	0.0	0.2	△ 0.3	△ 3.5	1.3	1.7	0.6

注： 10a 当たり玄米重は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

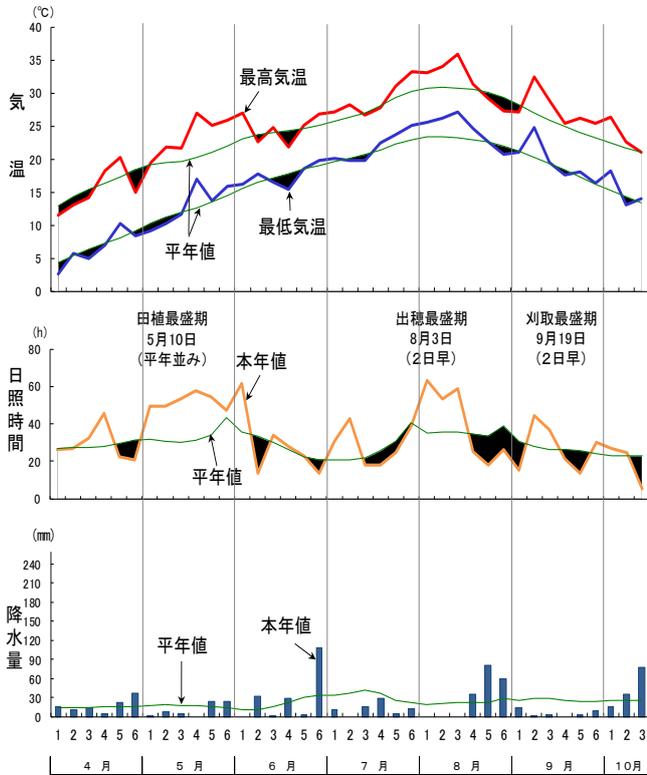
【参考】 令和元年産水稻の作況標本筆の10a 当たり玄米重の分布状況（北陸）



◎関連データ
令和元年アメダス半旬別気象グラフ

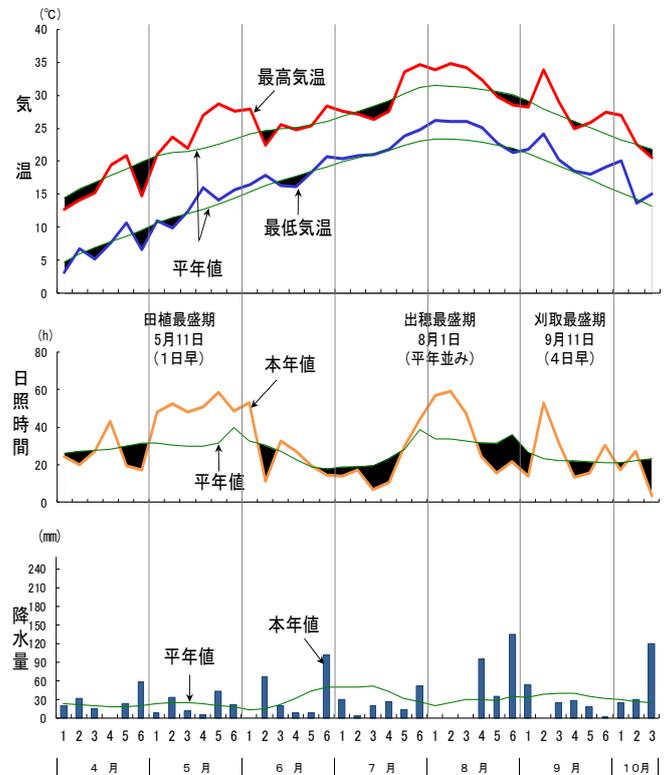
1 新潟

令和元年 アメダス半旬別気象グラフ(新潟)



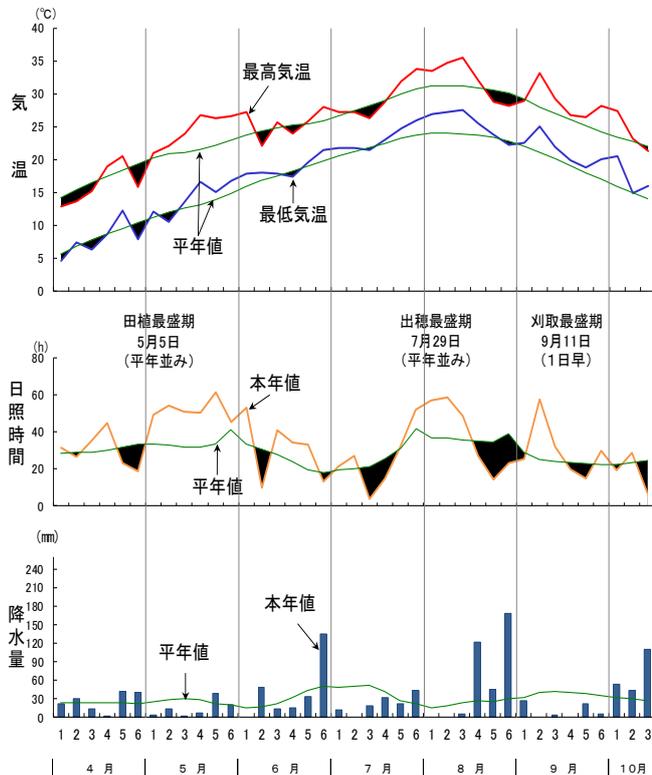
2 富山

令和元年 アメダス半旬別気象グラフ(富山)



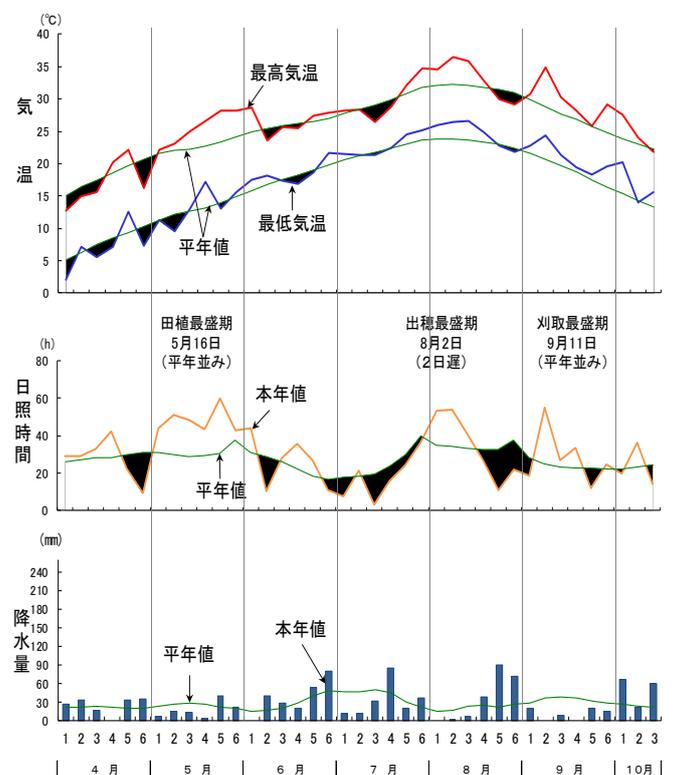
3 金沢

令和元年 アメダス半旬別気象グラフ(金沢)



4 福井

令和元年 アメダス半旬別気象グラフ(福井)



【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び収穫量調査として実施したものであり、水稻の作付面積、作柄状況・収穫量等を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2 調査対象数

(1) 作付面積調査

北 陸	標本単位区	： 3,451単位区
新潟県	標本単位区	： 1,682単位区
富山県	標本単位区	： 704単位区
石川県	標本単位区	： 574単位区
福井県	標本単位区	： 491単位区

(2) 収穫量調査

北 陸	作況標本筆	： 1,180筆	作況基準筆	： 31筆
新潟県	作況標本筆	： 500筆	作況基準筆	： 16筆
富山県	作況標本筆	： 220筆	作況基準筆	： 4筆
石川県	作況標本筆	： 230筆	作況基準筆	： 6筆
福井県	作況標本筆	： 230筆	作況基準筆	： 5筆

※作況基準筆は、地域の代表的なほ場を有意に選定し、水稻の草丈、茎数、穂数、一穂当たりもみ数等について測定を行い、本年の気象経過による作柄及び被害の特徴とその原因を把握する。

3 調査事項

(1) 作付面積調査

水 稻：作付面積

(2) 収穫量調査

水 稻：生育状況、登熟状況、10 a 当たり収量、被害状況、被害種類別被害面積
・被害量、耕種条件等

4 調査期日

(1) 作付面積調査：令和元年7月15日現在

(2) 収穫量調査：収穫期

5 調査・集計方法

(1) 作付面積調査

ア 母集団の編成

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200m四方（北海道にあっては、400m四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区の集まりを母集団（全国約290万単位区）としている。

単位区は、区画内に存する耕地の筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）について、面積調査用の地理情報システムにより、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報に補正することにより整備している。

イ 階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、そのそれぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別の水稲作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出する。

エ 実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稲が作付けされている全ての筆について、1筆ごとに作付けの状況及びその範囲を確認する。

オ 推定

面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況水稲作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の田台帳面積の合計」に乘じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稲作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

カ その他

遠隔地、離島、市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2) 収穫量調査

ア 母集団

(1)のイにより、田のみ階層及び田畑混在階層に分類される単位区を母集団としている。

イ 階層分け

都道府県別に地域行政上必要な水稲の作柄を表示する区域として、水稲の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ 標本配分及び抽出

都道府県別に配分された標本数を階層別に比例配分する。

階層別に配分された標本数を単位区の水稲作付面積（田台帳面積）に比例した確率で抽出する確率比例抽出法（具体的には単位区を水稲作付面積（田台帳面積）の小さい方から順に並べ、田台帳面積の合計を標本数で除した値の整数倍の値を含む単位区を選ぶ方法）により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稲が作付けされている筆から1筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とする。

エ 作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の3か所を系統抽出法により調査箇所を選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

オ 10a 当たり玄米重の算定

各作況標本筆について、一定株数（ 1 m^2 分 \times 3か所の株数）の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米（農産物規格規程（平成13年2月28日農林水産省告示第244号）に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70mm以上であるもの）となるように選別し、10a 当たり玄米重を決定する。

カ 10a 当たり収量の推定

各作況標本筆の10a 当たり玄米重を基に、都道府県別の10a 当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率（コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス）や被害データ等を加味して検討を行い、都道府県別の10a 当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆（10a 当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

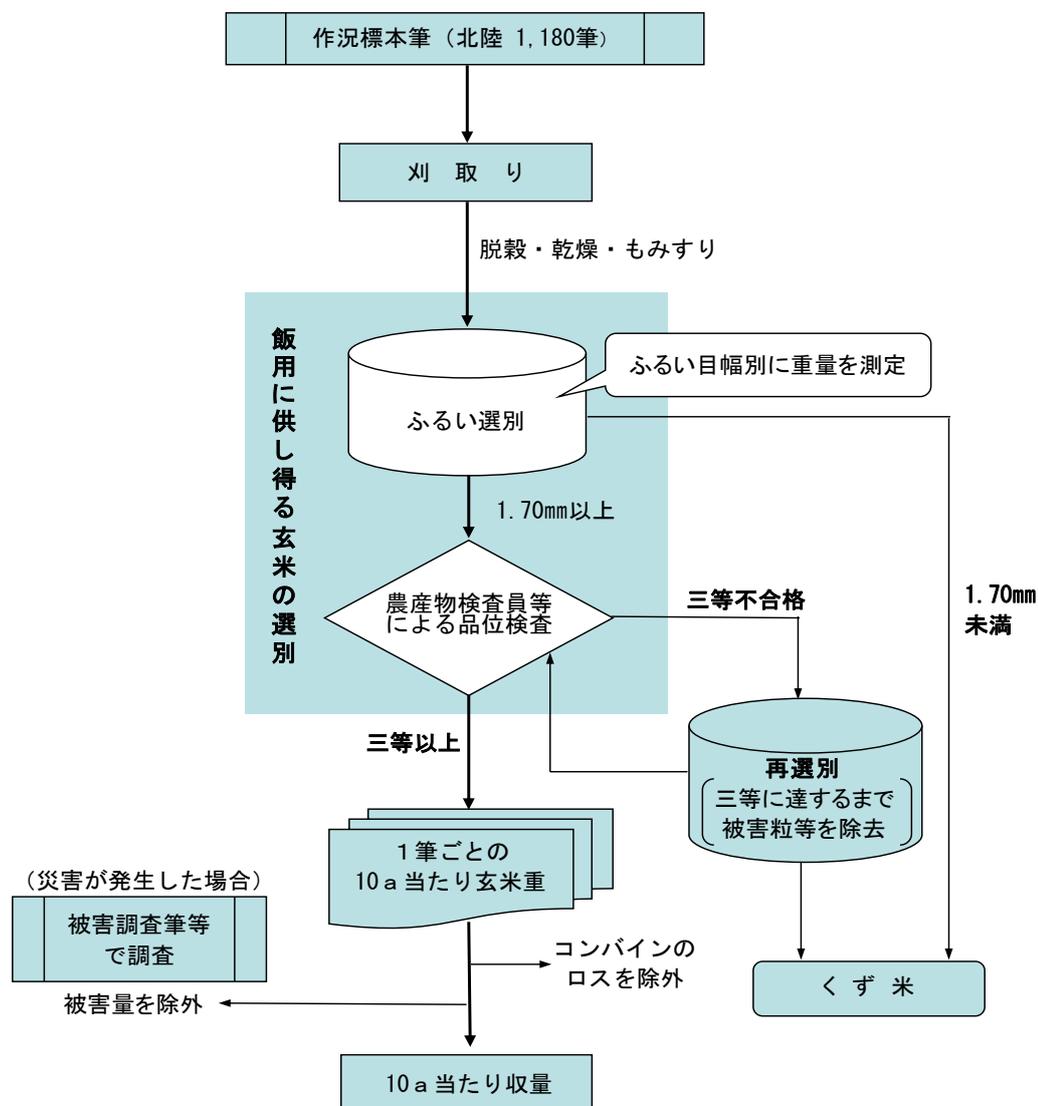
キ 収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10a 当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆ごとに一定面積の稲を刈り取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。



6 用語の解説

- (1) 「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（WC S用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。
- (2) 「作況指数」とは、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率である。
なお、平成26年産以前の作況指数は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出していたが、平成27年産以降の作況指数は、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値であり、北陸においては1.85mmを用いている。
- (3) 「10 a 当たり平年収量」とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10 a 当たり収量をいう。

- (4) 「被害面積」とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量から減収した面積をいう。
- (5) 「被害量」とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合に穫れ得ると見込まれる収量より減収した量をいう。
- (6) 「被害率」とは、平年収量（作付面積×10 a 当たり平年収量）に対する被害量の比率をいう。

7 作柄表示地帯とそれに含まれる市町村

県	作柄表示地帯	市町村					
新潟県	岩 船	村上市	関川村	粟島浦村			
	下 越 北	新発田市	阿賀野市	胎内市	聖籠町		
	下 越 南	新潟市	燕市	五泉市	弥彦村	阿賀町	
	中 越	長岡市	三条市	柏崎市	加茂市	見附市	田上町
		出雲崎町	刈羽村				
	魚 沼	小千谷市	十日町市	魚沼市	南魚沼市	湯沢町	津南町
上 越	糸魚川市	妙高市	上越市				
佐 渡	佐渡市						
富山県	富 山	県下全市町村					
石川県	加 賀	金沢市	小松市	加賀市	かほく市	白山市	能美市
		川北町	野々市市	津幡町	内灘町		
	能 登	七尾市	輪島市	珠洲市	羽咋市	志賀町	宝達志水町
福井県	嶺 北	福井市	大野市	勝山市	鯖江市	あわら市	越前市
		坂井市	永平寺町	池田町	南越前町	越前町	
	嶺 南	敦賀市	小浜市	美浜町	高浜町	おおい町	若狭町

8 利用上の注意

- (1) 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7 桁以上 (100万)	6 桁 (10万)	5 桁 (1 万)	4 桁 (1,000)	3 桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3 桁	2 桁		1 桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- (2) 表中に用いた記号は次のとおりである。
「△」：負数又は減少したもの。
「…」：事実不詳又は調査を欠くもの
- (3) この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「令和元年産水稻の収穫量（北陸）」（北陸農政局）による旨を記載してください。

【ホームページ掲載案内】

○北陸の各種農林水産統計調査結果は、北陸農政局ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/hokuriku/stat/> 】

○各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の「統計情報」で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

【 http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/index.html 】

お問合せ先

◎本統計調査結果について

連絡先：北陸農政局 統計部
生産流通消費統計課

電 話：（代表）076-263-2161 内線 3647
（直通）076-232-4895

連絡先：北陸農政局統計部（新潟県担当）

電 話：025-224-1441

連絡先：北陸農政局統計部（富山県担当）

電 話：076-441-0340

連絡先：北陸農政局統計部（石川県担当）

電 話：076-241-3175

連絡先：北陸農政局統計部（福井県担当）

電 話：0776-22-3676

◎農林水産統計全般について

連絡先：北陸農政局 統計部
統計企画課 企画係

電 話：（代表）076-263-2161 内線 3623
（直通）076-232-4892



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<http://www.e-stat.go.jp/>



農林業センサス

令和2年2月1日現在で、2020年農林業センサスを実施します。

○農林業経営体調査（令和元年12月中旬～令和2年2月末）

○農山村地域調査（令和元年12月上旬～令和2年2月末）

円滑な調査の実施に向けて、ご協力をお願いします。

また、調査票はオンラインによる回答も可能です。

農林業センサスホームページURL：<http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>